

祈りの歴史が息づく世界遺産の地

高野山と麓

高野山麓

開創から1200年を超える高野山

高野山を敬い、共に生き続けた山麓の人々

互いに織りなし、今に伝わる風景・文化をご紹介します

悠久の歴史を紡ぐ高野山



弘法大師空海によって開かれた天空の聖地、高野山。
平安の頃、嵯峨天皇よりこの地を賜り、真言密教の修行道場を築いたことに始まる。
周囲を内八葉外八葉と表される海拔 1,000m を超える峰々に囲まれ、その様子は蓮の華に例えられる。
空海は今も生き続けていると信じられ、祈りを捧げる人々のお参りが絶えない。



About

山

千二百年余の歴史を持つ「山」の姿

金剛力士像を左右に安置した重層の楼門である大門。真言密教の根本道場として創設された壇上伽藍。高野山真言宗の総本山である金剛峯寺。弘法大師空海の御廟のもと、20万基を超えるあらゆる時代の墓碑や供養塔が集う奥之院。1200年変わらぬ景色が今も尚生き続けている。





聖地高野山につながる「高野山麓」



高野山麓は、古代から多くの人々が行き交い、
様々な歴史の舞台となってきた。

高野山と麓に暮らす人々は長きにわたり繋がりを保ち、
弘法大師空海と高野山にまつわる場所が現代も数多く存在する。

About 麓

今も息づく高野山との「つながり」



丹生都比売神社（左上）、丹生酒殿神社（左中）、慈尊院（左下）、丹生官省符神社（右上）など、空海や高野山と縁の深い場所は数多い。

それは空海が残したものだけでなく、麓に暮らす人々が、土地の神々や空海を敬い建てたものなど、当時の高野山と麓の人々とは織りなした「文化」が今も息づく。

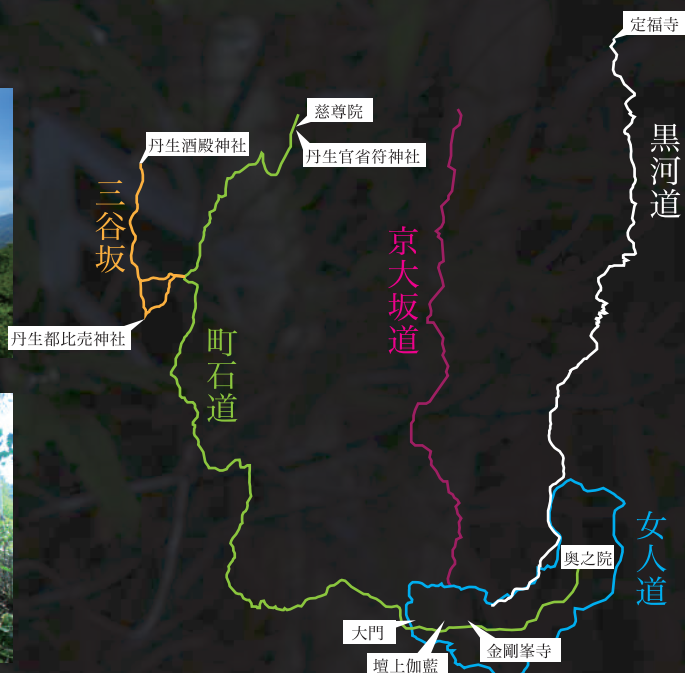
A photograph of a stone marker, likely a milestone or a boundary stone, set in a natural, wooded environment. The stone is dark and weathered, with a prominent cross-like shape carved into its center. The background is filled with dense green foliage and thin tree branches, creating a sense of being deep in a forest. The lighting is soft and diffused, highlighting the textures of the stone and the surrounding vegetation.

高野山と麓とを繋ぐ祈りの道 「高野参詣道」

About

参詣道

人々が生み出した信仰の「証」



人々は高野山を目指し、祈るため、あるいは様々な物資を運ぶため行き来するうちに、いくつかの道が形作られた。特に紀の川流域から高野山に至る道を「高野参詣道」と呼び、道ごとに特徴を持つ。

参詣道

其ノ

町石道
くちよういしみち



慈尊院から高野山へ通じる世界遺産高野参詣道「町石道」。

五輪塔を模した「町石」と呼ばれる石塔が1町（約109m）毎に建てられているのが特徴で、壇上伽藍 根本大塔を起点に、慈尊院まで180基（約20km）、奥之院まで36基（約4km）の町石が存在する。





高野山開創のおり、弘法大師空海が木製の卒塔婆を建てたのがはじまり。
現在残る町石は、朽ちた木製の代わりとして鎌倉時代に建て替えられた。
高野山に向かう際、参拝者は町石ひとつひとつに礼拝しながら、厳しい道をたどった。

参詣道

其ノ

一

一

三
谷
坂

く
み
た
に
ざ
か
く

紀の川のほとりに位置する丹生酒殿神社と天野（あまの）に位置する丹生都比売神社とを結ぶ世界遺産高野参詣道「三谷坂」。
全長約 5.5km の道沿いには、弘法大師空海の伝承にかかわりある石造物が存在する。

丹生酒殿神社

三
谷
坂

丹生都比売神社





丹生都比売神社は 1700 年以上前の創建と伝わる。御祭神の丹生都比売大神は、空海に高野山の土地を授けたとされ、丹生都比売大神の子、高野御子大神（狩場明神）が白と黒の犬とともに空海を高野山へ導いたという伝説が残る。

丹生酒殿神社は丹生都比売大神が降臨した際、紀の川の水で酒を醸造したことに由来すると言われる。

参詣道

其ノ

一
二
三

黒河道

くくろこみち

「雑事（ぞうじ）のぼり」と呼ばれる、麓の産物を高野山へ奉納する為に歩かれた世界遺産高野参詣道「黒河道」。

全長約 19km の道は、山内禁令の能狂言を催した太閤秀吉が、急な雷雨に驚き、馬で駆け下った、という伝承が残る。

定福寺

黒河道

京大坂道

不動坂口女人堂

金剛峯寺

女人道

参詣道

其ノ

四

京大坂道

きょうおおさかみち

京大坂道は、紀の川沿いから高野山へ向かう、全長約 10km の道で、最も安全とされ、江戸時代から盛んに利用された。

極楽橋から始まる不動坂は道中最大の難所で中世から江戸時代までの姿が保たれている。



女性達の祈りの道「女人道」

高野山は明治5年に女人禁制が解かれるまで、女性の入山を厳しく規制してきた。

しかし、弘法大師空海の御廟をお参りしたい女性達は、山内の結界沿いに、参詣道との交点に建てられた女人堂（によにんどう）をたずねながら峰々をたどったといわれ、女性達がたどった道は「女人道（によにんみち）」と呼ばれ、世界遺産に登録されている。



高野山存亡の危機から救った応其上人

安土桃山時代、豊臣秀吉は、紀州の要所を次々と攻略し、高野山も存亡の危機を迎えた。この時、応其上人（おうごしょうにん）という高僧が巧みな交渉術によって滅亡を回避するとともに、秀吉からの厚い信頼を得て、高野山再興に向けて協力体制を敷くことに成功した。

時の権力者から厚い信頼を得た応其上人は、山麓の荒地に町を興し、紀の川に橋を架けた。橋のたもとにできた町は「橋本（はしもと）」といわれ、今もその地名が残る。その他、様々な特権を秀吉から認めてもらうなど、地域の経済発展の礎を築いた。応其上人の功績を敬い参拝する人は今も絶えない。



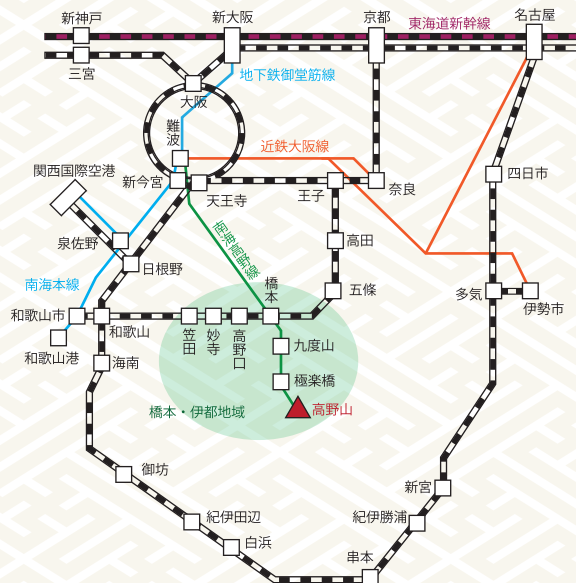
高野山と麓に広がる
「色彩豊かな魅力・文化」



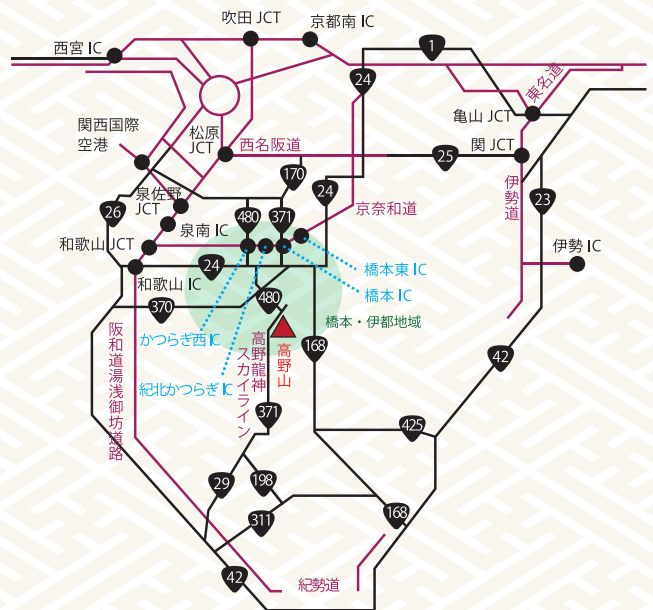
高野山と麓にいく

ACCESS

鉄道 MAP



道路 MAP



お問合せ先

市町・県

橋本市役所 0736-33-1111
 かつらぎ町役場 0736-22-0300
 九度山町役場 0736-54-2019
 高野町役場 0736-56-3000
 高野山観光情報センター 0736-56-2780
 和歌山県伊都振興局 0736-33-4909

観光関連団体

(一社) 高野山麓ツーリズムビューロー 0736-26-7988
 橋本市観光協会 0736-33-6106
 かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
 九度山町観光協会 0736-54-2019
 (一社) 高野町観光協会 0736-56-2468
 (一社) 高野山宿坊協会 0736-56-2616
 (公社) 和歌山県観光連盟 073-422-4631

各市町 HP

QRコード



高野山と麓

高野山
麓



(発行)

橋本・伊都広域観光協議会

(橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町、和歌山県伊都振興局)

(制作)

合同会社BALANCEOFFICE

2021. 3. 制作